

H24-D1-5 24.47~31.40m

コア観察カード				適正化すべき記事内容				記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事				コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度		下端深度	記事	記事を削除・変更・追記した理由		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					選定した記事内容			
78	24.47	25.80	岩片は硬さBと堅硬であるが、30~50°の割れ目、低密着割れ目が10~80mm間隔でほぼ平行に分布する。	24.47	25.80	岩片は硬さBと堅硬であるが、30~50°の割れ目、低密着割れ目が10~80mm間隔でほぼ平行に分布する。	・表現の適正化(傾度)	24.47	25.80	24.47~25.80m: 傾斜30~50°の割れ目や低密着割れ目が1~6cm間隔でほぼ平行に分布する。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない		
79	25.30	25.32	砂状~φ5mm細片化する以外は、割れ目にはほとんど挟在物は分布しない。	25.30	25.32	傾斜45°で幅10mm程度が砂状~φ5mm細片化する以外は、割れ目にはほとんど挟在物は分布しない。	・コアに合わせて追記した ・区間以外の記載は削除した	25.30	25.32	25.30~25.32m: 傾斜45°で幅10mm程度が砂状~φ5mmに細片化する。	-		
80	25.46	25.69	(割れ目状態欄)Ⅱランク (コアの形状欄)Ⅳランク	25.46	25.69	(割れ目状態欄)Ⅱランク (コアの形状欄)Ⅳランク	・挟在物を伴う割れ目が多く、周囲より割れ目が多いため割れ目状態、コアの形状のランクを変更した	25.46	25.69	(割れ目状態欄)Ⅱランク (コアの形状欄)Ⅳランク	-		
81	25.80	26.95	30~50°割れ目とわずかな低密着割れ目がほぼ平行で、10~15cm間隔で分布する。一部でこれら30~50°割れ目と斜交する10~50°割れ目も分布し、26.41m~26.47mで両系統の割れ目が交差し、φ20~30mmの硬質岩片に細片化するが、砂~粘土化は伴わない。また、割れ目やコア表面の一部は風化で褐色化するが、劣化は伴わない。	25.80	26.95	30~50°割れ目とわずかな低密着割れ目がほぼ平行で、10~15cm間隔で分布する。一部でこれら30~50°割れ目と斜交する10~50°割れ目も分布し、26.41m~26.47mで両系統の割れ目が交差し、φ20~30mmの硬質岩片に細片化するが、砂~粘土化は伴わない。また、割れ目やコア表面の一部は風化で褐色化するが、劣化は伴わない。	・表現の適正化(傾度、傾向、両系統、粘土化⇒粘土化部)	25.80	26.95	25.80~26.95m: 傾斜30~50°の割れ目とわずかな低密着割れ目がほぼ平行に10~15cm間隔で分布する。一部でこれらと斜交する10~50°の割れ目も分布し、26.41m~26.47mでは両系統の割れ目が交差し、φ20~30mmの硬質岩片に細片化するが、砂~粘土化は伴わない。割れ目やコア表面の一部は風化で褐色化するが、劣化は伴わない。	-		
82	26.13	26.37	(コアの形状欄)Ⅲランク	26.13	26.37	(コアの形状欄)Ⅳランク	・周囲と比べて割れ目が多いためコアの形状のランクをⅣランクに変更した	26.13	26.37	(コアの形状欄)Ⅳランク	-		
83	26.95	27.20	割れ目間隔3~10cmとやや割れ目が多いが、割れ目挟在物は分布せず、硬さBと堅硬である。	26.95	27.20	割れ目間隔3~10cmとやや割れ目が多いが、割れ目挟在物は分布せず、硬さBと堅硬である。	・表現の適正化(やや)	26.95	27.20	26.95~27.20m: 割れ目間隔3~10cmで割れ目がやや多いが、割れ目の挟在物は分布しない。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない		
84	27.05	27.20	(コアの形状欄)Ⅳランク	27.05	27.20	(コアの形状欄)Ⅲランク	・割れ目が少ないためコアの形状のランクをⅢランクに変更した	27.05	27.20	(コアの形状欄)Ⅲランク	-		
85	27.20	28.48	コア長20cm以上が主体で、硬さBと堅硬、0~10°割れ目主体で挟在物も分布しない。	-	-	-	-	27.20	28.48	27.20~28.48m: コア長20cm以上、傾斜0~10°の割れ目が主体で、挟在物は分布しない。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない		
86	27.95	28.05	(コアの形状欄)Ⅱランク	27.95	28.05	(コアの形状欄)Ⅳランク	・周囲と比べて割れ目が多いためコアの形状のランクをⅣランクに変更した	27.95	28.05	(コアの形状欄)Ⅳランク	-		
87	28.48	30.20	40~50°割れ目主体で、ほぼ平行に分布する。一部割れ目や割れ目周辺は風化で褐色化するが、砂状化などの劣化は伴わない。また、粘土や粘土層も挟在しない。	28.48	30.20	40~50°割れ目主体で、ほぼ平行に分布する。一部割れ目や割れ目周辺は風化で褐色化するが、砂状化などの劣化は伴わない。また、粘土や粘土層も挟在しない。所々、マンガン鉱染で黒褐色化する。	・表現の適正化(ほぼ、傾向、所々)	28.48	30.20	28.48~30.20m: 傾斜40~50°の割れ目が主体で、ほぼ平行に分布する。一部の割れ目や割れ目周辺は風化で褐色化し、コア表面にはぶい棕色を呈するが、砂状化などの劣化は伴わず、粘土や粘土層も挟在しない。所々、マンガン鉱染で黒褐色化する。	・記事内容がほぼ同じであるため、28.48m以降の記事を含めて記載した		
88	28.66	30.20	(コアの形状欄)Ⅳランク	28.66	30.20	(コアの形状欄)Ⅳランク	・上位と比べて割れ目が多いためコアの形状のランクをⅣランクに変更した	28.66	30.20	(コアの形状欄)Ⅳランク	-		
89	28.66	30.77	(岩級区分欄)CM	28.66	30.77	(岩級区分欄)CM	・上記の変更に伴い、岩級を変更した	28.66	30.77	(岩級区分欄)CM	-		
90	29.20	-	29.20m以降では、一部に傾斜40~50°とこれらに斜交~直交する低密着割れ目も含ま、ハンマーの打撃で10cm以下に分離することがある。	-	-	-	-	29.20	-	29.20m以降では、一部に傾斜40~50°とこれらに斜交~直交する低密着割れ目も含ま、ハンマーの打撃で10cm以下に分離することがある。	-		
91	28.48	-	28.48m以降は風化でコア表面の一部にはぶい棕色を呈するが、砂状化などの劣化は伴わず硬さBと堅硬である。	-	-	-	-	-	-	28.48m以降は風化でコア表面の一部にはぶい棕色を呈するが、砂状化などの劣化は伴わず硬さBと堅硬である。	・上記の記事に含めたため記載しない		
92	30.20	30.35	30~40°割れ目が5~20mm間隔で平行に分布し、風化で砂状化を伴い、軟質化する。粘土化や粘土層は分布しない。	30.20	30.35	30~40°割れ目が5~20mm間隔で平行に分布し、風化で砂状化を伴い、軟質化する。粘土化や粘土層は分布しない。	・表現の適正化(軟質化)	30.20	30.35	30.20~30.35m: 傾斜30~40°の割れ目が5~20mm間隔で平行に分布し、風化で砂状化を伴い、軟質化する。粘土化や粘土層は分布しない。	-		
93	30.20	30.35	(コアの形状欄)Ⅳランク	30.20	30.35	(コアの形状欄)Ⅳランク	・周囲と比べて割れ目が多いためコアの形状のランクをⅣランクに変更した	30.20	30.35	(コアの形状欄)Ⅳランク	-		
94	30.35	30.77	硬さBと堅硬、割れ目少なく、20~40°主体、割れ目には挟在物は分布しない。	30.35	30.77	硬さBと堅硬、割れ目少なく、20~40°主体、割れ目には挟在物は分布しない。	・割れ目が少なくなる深度を追記した	30.35	30.77	30.35~30.77m: 傾斜20~40°の割れ目が分布するが、割れ目は少ない。割れ目には挟在物は分布しない。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない ・割れ目が少なくなる区間のみ記載に変更した		
95	30.35	30.57	(コアの形状欄)Ⅳランク	30.35	30.57	(コアの形状欄)Ⅳランク	・下位と比べて割れ目が多いためコアの形状のランクをⅣランクに変更した	30.35	30.57	(コアの形状欄)Ⅳランク	-		
96	30.77	31.57	風化でやや軟質化し、硬さDとなる。30~50°割れ目と一部でこれらに斜交~直交する30~50°割れ目も分布する。また、同角の低密着割れ目も31.40~31.60mを中心に分布する。割れ目そりに薄く砂状化することが多いが、粘土化部や粘土層の分布は少ない。	30.77	31.57	風化でやや軟質化し、硬さDとなる。30~50°割れ目と一部でこれらに斜交~直交する30~50°割れ目も分布する。また、同角の低密着割れ目も31.40~31.57mに多く分布する。割れ目沿いに薄く砂状化することが多いが、粘土化部や粘土層の分布は少ない。	・表現の適正化(やや、軟質化、沿い、同角度) ・コアに合わせて低密着割れ目が多く分布する下端深度を変更した	30.77	31.57	30.77~31.57m: 風化でやや軟質化する。傾斜30~50°の割れ目と一部でこれらに斜交~直交する30~50°の割れ目も分布する。また、同角の低密着割れ目も31.40~31.57mに多く分布する。割れ目沿いに薄く砂状化することが多いが、粘土化部や粘土層の分布は少ない。	-		
97	31.66	31.06	50°割れ目2mmに風化で黄褐色(10YR 5/6)化した数個な粘土層が分布。	31.06	31.06	50°割れ目2mmに風化で黄褐色(10YR 5/6)化した数個な粘土層が分布。	・表現の適正化(軟弱⇒軟質)	31.06	31.06	31.06m: 傾斜50°で幅1~2mmの風化して軟質な黄褐色粘土層を挟む。	-		
98	31.25	31.40	(コアの形状欄)Ⅳランク (コアの硬さ欄)Ⅰランク	31.25	31.40	(コアの形状欄)Ⅳランク (コアの硬さ欄)Ⅰランク	・周囲と比べて割れ目が少なく、コアはやや硬質であるためコアの形状、コアの硬さのランクを変更した	31.25	31.40	(コアの形状欄)Ⅳランク (コアの硬さ欄)Ⅰランク	-		

H24-D1-5 31.42~35.08m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	報告書柱状図記事			記事を削除・変更・追記した理由	コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	記事		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			選定した記事内容			
99	31.42	31.52	31.42m・35°、31.52m・45°の各割れ目下盤側に12m、30mmが砂状化する。	31.42	31.52	31.42m・35°、31.52m・45°の各割れ目下盤側に幅12mm、幅30mmが砂状化する。	31.42	31.52	31.42m・35°、31.52m・45°の各割れ目の下端側は幅12mm、幅30mmで砂状化する。		
100	31.44	31.44	40°割れ目の下盤側10~20mmマンガン鉱染で黒褐色化。	31.44	31.44	40°割れ目の下盤側幅10~20mmマンガン鉱染で黒褐色化。	31.44	31.44	31.44m・傾斜40°の割れ目の下端側幅10~20mmがマンガン鉱染で黒褐色化する。		
101	31.57	32.68	風化は弱くなり、硬さB主体。一部で硬さBの壁硬部も含む。30~50°割れ目主体。	-	-	-	31.57	32.68	31.57~32.68m・傾斜30~50°の割れ目を主体とする。		記事欄以外から読み取れる硬さや風化の情報は記載しない
102	31.97	32.09	(コアの硬さ欄)Bランク	31.97	32.09	(コアの硬さ欄)Bランク	31.97	32.09	(コアの硬さ欄)Bランク		
103	32.14	32.14	50°割れ目は2~4mm砂状化~2~3mmに細片化するが、これ以外では砂状化なし。また、粘土化部や粘土層は分布しない。	32.14	32.14	50°割れ目は幅2~4mm砂状化~2~3mmに細片化するが、これ以外では砂状化なし。また、粘土化部や粘土層は分布しない。	32.14	32.14	32.14m・傾斜50°の割れ目沿いに幅2~4mmが砂状化~2~3mmに細片化するが、粘土化部や粘土層は分布しない。		
104	32.68	32.76	上下端を45°割れ目で囲まれ、風化で砂状化する。上端は一部で幅4mmの明黄褐色(10YR 7/6)軟弱粘土を伴うが、粘土は脈としての連続性はない。	32.68	32.76	上下端を45°割れ目で囲まれ、風化で砂状化する。上端は一部で幅4mmの明黄褐色(10YR 7/6)軟弱粘土を伴うが、粘土は脈としての連続性はない。	32.68	32.76	32.68~32.76m・上下端を傾斜45°の割れ目で囲まれ、風化で砂状化する。上端は一部で幅4mmの軟弱な明黄褐色粘土を伴うが、粘土は連続しない。		
105	32.76	33.96	硬さBと壁硬であるが、割れ目が多く、一部で砂状化部を挟む。割れ目は40~70°が主体で、一部にこれに斜交~直交する10~40°も分布する。また、同角度の低密着割れ目も33.40~33.60mを中心に分布する。	32.76	33.96	硬さBと壁硬であるが、割れ目が多く、一部で砂状化部を挟む。割れ目は40~70°が主体で、一部にこれに斜交~直交する10~40°も分布する。また、同角度の低密着割れ目も33.40~33.60mを中心に分布する。	32.76	33.96	32.76~33.96m・割れ目が多く、一部で砂状化部を挟む。傾斜40~70°の割れ目が主体で、一部にこれに斜交~直交する10~40°の割れ目も分布する。また、同角度の低密着割れ目も33.40~33.60mに多く分布する。		記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
106	33.80	33.80	50°はせん断性割れ目で、交差する25°割れ目を切っている(変位量15mm右ズレ)。	33.80	33.80	50°のせん断性割れ目は、交差する25°割れ目を止めている。切っけている(変位量15mm右ズレ)に割れ目に挟在物は認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	33.80	33.80	33.80m・傾斜50°の割れ目は、交差する傾斜25°の割れ目を止めている。割れ目に挟在物は認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。		
107	33.86	33.86	25°幅0.5mmの石英脈が母岩に密着して連続。	-	-	-	33.86	33.86	33.86m・傾斜25°で幅0.5mmの石英脈が母岩に密着して連続する。		
108	33.96	33.96	55°割れ目上盤側幅10~20mm軽微なマンガン鉱染受け。下盤側はやや軟質化(D)	33.96	33.96	55°割れ目上盤側幅10~20mm軽微なマンガン鉱染受け。下盤側はやや軟質化(D)	33.96	33.96	33.96m・傾斜55°の割れ目の上盤側は幅10~20mmで弱くマンガン鉱染を受け、下盤側はやや軟質化する。		記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
109	33.98	36.00	35.08m以降は風化で割れ目の多くは割れ目沿いに砂状化し、幅1mm前後の軟弱な白色~明黄褐色(10YR 6/6)の粘土脈をはむことが多く、35.08m以降の割れ目は一部消滅しかかり、不明瞭であるが、大半は明瞭に残留している。20~40°が主体で、これらに斜交する40~70°割れ目も分布する。35.05m・50°幅4mmの軟弱な明黄褐色(2.5YR 7/2)粘土脈が分布する。	33.96	35.08	35.08m以降は風化で割れ目の多くは割れ目沿いに砂状化し、幅1mm前後の軟弱な白色~明黄褐色(10YR 6/6)の粘土脈をはむことが多く、35.08m以降の割れ目は一部消滅しかかり、不明瞭であるが、大半は明瞭に残留している。20~40°が主体で、これらに斜交する40~70°割れ目も分布する。35.05m・50°幅4mmの軟弱な明黄褐色(2.5YR 7/2)粘土脈が分布する。	33.96	35.08	33.96~35.08m・風化で、多くの割れ目沿いは砂状化し、幅1mm前後の軟弱な白色~明黄褐色の粘土脈を挟むことが多い。一部の割れ目は消滅しかかり、不明瞭であるが、大半は明瞭に残留する。傾斜20~40°の割れ目が主体で、これらに斜交する40~70°の割れ目も分布する。35.05mに傾斜50°で幅4mmの軟弱な明黄褐色の粘土脈を挟む。		
110	35.00	35.08	(変質欄)2ランク	35.00	35.08	(変質欄)3ランク	35.00	35.08	(変質欄)3ランク		

H24-D1-5 35.08~38.71m

コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードの変更点)
上端深度	下端深度	上端深度	下端深度		上端深度	下端深度	
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>		記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>		記事 選定した記事内容	
111	35.08	-	35.08	36.00	35.08	36.00	記事欄以外から読み取れる硬さや風化の情報は記載しない
112	35.25	35.25	35.25	35.25	35.25	35.25	
113	35.78	35.90	35.78	35.90	35.78	35.90	
114	35.97	35.97	35.97	35.97	35.97	35.97	
115	36.00	36.70	36.00	36.70	36.00	36.70	
116	36.00	36.70	36.00	36.70	36.00	36.70	記事欄以外から読み取れる硬さや風化の情報は記載しない
117	36.70	37.17	36.70	37.17	36.70	37.17	
118	36.70	38.73	36.70	38.71	36.70	38.71	
119	-	-	37.72	37.72	37.72	37.72	
120	37.72	38.50	37.72	38.50	37.72	38.50	
121	-	-	37.85	37.85	37.85	37.85	
122	38.00	38.13	-	-	38.00	38.13	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
123	38.13	38.61	38.13	38.71	38.13	38.71	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
124	38.61	38.71	38.61	38.71	38.61	38.71	

H24-D1-5 38.71~42.05m

コア観察カード				適正化すべき記事内容				記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事				コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
記事		記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		記事		記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)			記事		記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)			
上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度	上端深度	下端深度		上端深度	下端深度	上端深度	下端深度		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>								
123	38.73	38.82	上端は様状コアのため不明、下端は45°の直線的でシャープな割れ目、その上端の38.80m以降では砂状化と幅1mm以下の軟弱な灰白色粘土層を多く伴い劣化している。	38.71	38.79	上端は様状コアのため不明、下端は45°の直線的でシャープな割れ目、それ以上は砂状化と幅1mm以下の軟弱な灰白色粘土層を多く伴い劣化している。	-	-	38.71	38.79	38.71~38.79m 上端は様状コアのため不明、下端は傾斜45°の直線的でシャープな割れ目、この間は砂状化と幅1mm以下の軟弱な灰白色粘土層を多く伴い、劣化する。	-	-	-
126	38.73	38.82	(コアの硬さ欄)Gランク	38.71	38.79	(コアの硬さ欄)Eランク	-	-	38.71	38.79	(コアの硬さ欄)Iランク	-	-	-
127	38.79	38.82	(風化欄)δランク	38.79	38.82	(風化欄)γランク	-	-	38.79	38.82	(風化欄)γランク	-	-	-
128	38.82	40.73	硬さC主体で、39.49~39.64mに風化で軟化した硬さDを含む、40~70°割れ目、低密着割れ目が主体で、40.00m以遠では10~20°も分布する。割れ目の一部は薄く砂状化するものも含まれるが、粘土化部や粘土層は殆んど分布しない。ただし、硬さDの39.49~39.64mでは上端50°、下端60°割れ目に囲まれ区間の割れ目ぞいに砂状化が進む部分もある。割れ目の一部はマンガン鉱染で黒褐色化する。	38.79	40.73	硬さC主体で、39.49~39.64mに風化で軟化した硬さDを含む、40~70°割れ目、低密着割れ目が主体で、40.00m以遠では10~20°も分布する。割れ目の一部は薄く砂状化するものも含まれるが、粘土化部や粘土層は殆んど分布しない。ただし、硬さDの39.49~39.64mでは上端50°、下端60°割れ目に囲まれ区間の割れ目ぞいに砂状化が進む部分もある。割れ目の一部はマンガン鉱染で黒褐色化する。	-	-	38.79	40.73	38.79~40.73m 傾斜40~70°の割れ目や低密着割れ目が主体で、40.00m以遠では傾斜10~20°のものも分布する。割れ目の一部は薄く砂状化するが、粘土化部や粘土層は殆んど分布しない。ただし、39.49~39.64mでは上端50°、下端60°の割れ目に囲まれ、風化で軟質化し、割れ目ぞいに砂状化が進む部分もある。割れ目の一部はマンガン鉱染で黒褐色化する。	-	-	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
129	39.15	39.49	(コアの形状欄)Ⅳランク	39.15	39.49	(コアの形状欄)Ⅳランク	-	-	39.15	39.49	(コアの形状欄)Ⅳランク	-	-	-
130	39.64	40.51	(コアの形状欄)Ⅳランク	39.64	40.51	(コアの形状欄)Ⅳランク	-	-	39.64	40.51	(コアの形状欄)Ⅳランク	-	-	-
131	40.12	40.12	57°はせん断性割れ目で、交差する40°割れ目を切っている(変位量6mmをズレ)	40.12	40.12	57°のせん断性割れ目は、交差する40°割れ目を止めている。切っ先は変位量6mmをズレ、割れ目には挟在物は認められない。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-	-	40.12	40.12	40.12m 傾斜57°の割れ目は、交差する傾斜40°の割れ目を止めている。割れ目に挟在物は認められない。割れ目周辺の岩壁が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-	-	-
132	40.23	40.23	34°幅0.5~1mmで母岩に密着して石英脈が連続する。	-	-	-	-	-	40.23	40.23	40.23m 傾斜54°で幅0.5~1mmの石英脈が母岩に密着して連続する。	-	-	-
133	40.52	40.52	60°はせん断性割れ目で交差する20°割れ目を切っている(変位量6mmをズレ)	40.52	40.52	60°はせん断性割れ目で交差する20°割れ目を切っている(変位量6mmをズレ)	-	-	-	-	-	-	-	-
134	40.73	40.85	上端55°、下端60°割れ目に囲まれて砂状化。割れ目方向に幅2~3mmの軟弱な灰白~灰赤色(2.5YR 6/2)粘土層を伴う。	40.73	40.85	上端55°、下端60°割れ目に囲まれて砂状化~マンガン汚染を伴う塊状化。割れ目方向に幅2~3mmの軟弱な灰白~灰赤色(2.5YR 6/2)粘土層を伴う。	-	-	40.73	40.85	40.73~40.85m 上端55°、下端60°の割れ目に囲まれて砂状化~マンガン汚染を伴う塊状化を呈する。割れ目方向に幅2~3mmの軟弱な灰白~灰赤色の粘土層を伴う。	-	-	-
135	40.85	41.08	50~60°割れ目が10~30mm間隔で平行に分布。割れ目ぞいに風化進み全体が軟化する。一部でマンガン鉱染を伴う。	40.85	41.08	50~60°割れ目が10~30mm間隔で平行に分布。割れ目ぞいに風化進み全体が軟化する。一部でマンガン鉱染を伴う。	-	-	40.85	41.08	40.85~41.08m 傾斜50~60°の割れ目が10~30mm間隔で平行に分布する。割れ目ぞいに風化が進み、全体が軟化する。一部でマンガン鉱染を伴う。	-	-	-
136	41.08	41.49	硬さBと硬度で、10~30°割れ目と一部で同角の低密着割れ目伴う。両者とも挟在物はほぼない。	41.08	41.49	硬さBと硬度で、10~30°割れ目と一部で同角の低密着割れ目伴う。両者とも挟在物はほぼない。	-	-	41.08	41.49	41.08~41.49m 傾斜10~30°の割れ目と一部で同傾斜の低密着割れ目が分布する。両者とも挟在物はほぼない。	-	-	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
137	41.49	42.23	10~30°割れ目、低密着割れ目主体で、一部でこれらに斜交~直交する50~70°が分布。交差部のうち、42.15m付近ではφ5~10mmに鱗片化する。	-	-	-	-	-	41.49	42.23	41.49~42.23m 傾斜10~30°の割れ目や低密着割れ目が主体で、一部でこれらに斜交~直交する50~70°のものも分布する。交差部のうち、42.15m付近ではφ5~10mmに鱗片化する。	-	-	-
138	42.05	-	42.05m以深では幅1mm以下の軟弱な白色粘土層を伴う。	42.05	-	42.05m以深では幅1mm以下の軟弱な白色粘土層を伴う。	-	-	42.05	-	42.05m以深では幅1mm以下の軟弱な白色粘土層を伴う。	-	-	-

H24-D1-5 42.23~47.20m

コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「J」で表示)	記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	上端深度	下端深度			上端深度	下端深度		
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか <input checked="" type="checkbox"/>				選定した記事内容			
		追加変更した情報が正しく転記されているか <input checked="" type="checkbox"/>							
139	42.23	42.74	幅1mm前後の石英脈が割れ目と平行して多数分布。コア自身も一部珪化し膠質化している。50~60° 割れ目が平行に分布。マンガン汚染が目立つ。	幅1mm前後の石英脈が割れ目と平行して多数分布。コア自身も一部珪化し膠質化している。50~60° 割れ目が平行に分布。マンガン汚染が目立つ。	マンガン汚染は周囲と異なる状況であるため追記した	42.23	42.74	42.23~42.74m:幅1mm前後の石英脈が割れ目と平行して多数分布する。コア自身も一部珪化し膠質化する。傾斜50~60°の割れ目が平行に分布し、マンガン汚染が目立つ。	
140	42.52	42.52	55° 割れ目の一部は幅2~4mmで砂状。ないし、φ2~3mm細片化するが、粘土は含まれないが、マンガン染染で一部黒褐色化する。	55° 割れ目の一部は幅2~4mmで砂状。ないし、φ2~3mm細片化するが、粘土は含まれないが、マンガン染染で一部黒褐色化する。	・表裏の適正化(狭む)	42.52	42.52	42.52m:傾斜55°の割れ目の一部が幅2~4mmで砂状。ないし、径2~3mmに細片化する。粘土は含まれないが、マンガン染染で一部黒褐色化する。	
141	42.74	43.25	風化により、割れ目の一部は消滅ないし消滅しかかっている。残留する割れ目は50~60° 主体である。粘土42.85m~40° 幅1mm、43.21m~30° 幅1mmの石英脈が母岩に密着して連続する。粘土化部は粘土脈は分布しない。	風化により、割れ目の一部は消滅ないし消滅しかかっている。残留する割れ目は50~60° 主体である。粘土42.85m~40° 幅1mm、43.21m~30° 幅1mmの石英脈が母岩に密着して連続する。粘土化部は粘土脈は分布しない。43.03m~傾斜64°、幅2~4mmの灰白色粘土を挟む。43.03~43.15m間は極細な割れ目にマンガンを含む。	・書きかけの「粘土」は削除した ・粘土脈が認められるため「粘土化部は粘土脈は分布しない」を削除し、粘土脈について追記した ・マンガンは周囲と異なる状況であるため追記した	42.74	43.25	42.74~43.25m:風化で割れ目の一部は消滅ないし消滅しかかっている。残留する割れ目は傾斜50~60°が主体である。42.85mに傾斜40°、43.21mに傾斜30°で幅1mmの石英脈が母岩に密着して連続する。43.03m:傾斜64°で幅2~4mmの灰白色粘土を挟む。43.03~43.15m:微細な割れ目にマンガンを含む。	
142	42.74	43.25	(実質欄)2ランク	(実質欄)3ランク	・実質の程度がやや強いため実質のランクを3ランクに変更した	42.74	43.25	(実質欄)3ランク	
143	43.25	45.09	風化と実質で著しく軟化する硬さEが主体であるが、部分的に硬さDの岩片が残留する。原岩組織は残留するが、割れ目はほぼ消滅している。色々に幅1~3mmの軟質な灰白色粘土を挟む。ないし、網状に含んでいる。	風化と実質で著しく軟化する硬さEが主体であるが、部分的に硬さDの岩片が残留する。原岩組織は残留するが、割れ目はほぼ消滅している。色々に幅1~3mmの軟質な灰白色粘土を挟む。ないし、網状に含んでいる。	・表裏の適正化(軟質化、原岩組織:ほぼ、所々、軟弱⇒軟質)	43.25	45.09	43.25~45.09m:風化と実質で著しく軟化するが、部分的に硬さDの岩片が残留する。原岩組織は残留するが、割れ目はほぼ消滅する。所々に幅1~3mmの軟質な灰白色粘土を挟む。ないし、網状に含む。	
144	-	-	-	43.58	43.76	マンガン汚染が顕著で、一部、径2~30mmに岩片化している。	43.58	43.76	43.58~43.76m:マンガン汚染が顕著で、一部、径2~30mmに岩片化する。
145	43.80	43.80	60°はせん断性割れ目。上盤側に分布する複数の粘土脈が切られている(実位置不明)	60°のせん断性割れ目は、上盤側に分布する複数の粘土脈を止めている。切られている実位置不明。割れ目には幅0.5mm以下の不連続な灰白色粘土を挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	・60°の割れ目を横断する岩片や長石の破片が見られるため「切られている」を「止めている」に変更し、実位置についての記載を削除した ・上盤側が必ずしも上盤とは限らないため上盤に変更した ・割れ目及び周辺の状況について追記した ・上記及び追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」を削除した	43.80	43.80	43.80m:傾斜60°の割れ目は、上盤側に分布する複数の粘土脈を止めている。割れ目には幅0.5mm以下の不連続な灰白色粘土を挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められる。	
146	44.00	45.09	(実質欄)3ランク	(実質欄)4ランク	・強く軟質しているため実質のランクを4ランクに変更した	44.00	45.09	(実質欄)4ランク	
147	44.30	44.94	硬さDの岩片も多く含む。	-	-	44.30	44.94	44.30~44.94m:硬さDの岩片を多く含む。	
148	45.09	45.82	風化により軟化している。30~50° 割れ目が主体であるが、割れ目沿いに砂状化する。粘土脈は少ないが、45.54m~55° 幅1~2mmの黄褐色粘土脈を挟む。	風化により軟化している。30~50° 割れ目が主体であるが、割れ目沿いに砂状化する。粘土脈は少ないが、45.54m~55° 幅1~2mmの黄褐色粘土脈を挟む。	・表裏の適正化(軟質化、狭む、沿い)	45.09	45.82	45.09~45.82m:風化で軟質化する。傾斜30~50°の割れ目が主体で、割れ目沿いに砂状化する。粘土脈は少ない。45.54m:傾斜55°で幅1~2mmの黄褐色粘土脈を挟む。	
149	45.82	45.89	上端58°、下端55°の直線的でシャープな割れ目に囲まれ、灰白~灰黄色粘土とφ5~10mmの一部粘土化、一部硬さDの岩片からなる粘土帯り岩片状の軟質部。一部、マンガン汚染が顕著で幅15mmの岩片を25%程度含む。	上端58°、下端55°の直線的でシャープな割れ目に囲まれ、灰白~灰黄色粘土とφ5~10mmの一部粘土化、一部硬さDの岩片からなる粘土帯り岩片状の軟質部。一部、マンガン汚染が顕著で幅15mmの岩片を25%程度含む。	・表裏の適正化(混じり) ・岩片を含むマンガン汚染は周囲と異なる状況であるため追記した	45.82	45.89	45.82~45.89m:上端58°、下端55°の直線的でシャープな割れ目に囲まれ、灰白~灰黄色粘土と径5~10mmの一部粘土化、一部硬さDの花崗岩の岩片からなる粘土帯り岩片状の軟質部。一部、マンガン汚染が顕著で幅2~15mmの岩片を25%程度含む。	
150	45.89	47.47	風化により一部の割れ目は消滅、ないし、消滅しかかっている。残留する割れ目は60~70° 主体で、割れ目沿いに砂状化することが多い。粘土脈の分布は少ないが、46.00~46.20m間では幅1mm前後の軟質な白色粘土が目立つが、粘土脈としての連続性はない。部分的に軽微なマンガン染染を受ける。	風化により一部の割れ目は消滅、ないし、消滅しかかっている。残留する割れ目は60~70° 主体で、割れ目沿いに砂状化することが多い。粘土脈の分布は少ないが、46.00~46.20m間では幅1mm前後の軟質な白色粘土が目立つが、粘土脈としての連続性はない。部分的に軽微なマンガン染染を受ける。	・表裏の適正化(沿い、軟弱⇒軟質)	45.89	47.47	45.89~47.47m:風化により一部の割れ目は消滅、ないし、消滅しかかっている。残留する割れ目は傾斜60~70°が主体で、割れ目沿いに砂状化することが多い。粘土脈の分布は少ない。46.00~46.20m間では幅1mm前後の軟質な白色粘土が目立つが、粘土脈としての連続性はない。部分的に軽微なマンガン染染を受ける。	
151	46.73	47.12	(コアの形状欄)Ⅳランク	(コアの形状欄)Ⅳランク	・周囲と比べて割れ目が少ないためコアの形状のランクをⅣランクに変更した	46.73	47.12	(コアの形状欄)Ⅳランク	
152	47.20	47.20	50° 割れ目は幅4~7mmでφ2mm石英粒と軟質な白色粘土を挟む。	50° 割れ目は幅4~7mmでφ2mm石英粒と軟質な白色粘土を挟む。	・表裏の適正化(軟弱⇒軟質、狭む)	47.20	47.20	47.20m:傾斜50°の割れ目は幅4~7mmで径2mmの石英粒と軟質な白色粘土を挟む。	
153	47.20	-	47.20m以下では、50° 前後の割れ目、低密度割れ目が1~2cm間隔で分布し、殆どに幅0.5~2mmの軟質な白色粘土が付着する。	47.20m以下では、50° 前後の割れ目、低密度割れ目が1~2cm間隔で分布し、殆どに幅0.5~2mmの軟質な白色粘土が付着する。	・表裏の適正化(軟弱⇒軟質)	47.20	-	47.20m以下では、傾斜50°前後の割れ目や低密度割れ目が1~2cm間隔で分布し、その殆どに幅0.5~2mmの軟質な白色粘土が付着する。	

H24-D1-5 47.20~48.30m

コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)	報告書柱状図記事		記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)	
上端深度	下端深度	上端深度	下端深度		上端深度	下端深度		
				記事 (コア観察カードから正しく転記されているか?) <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (コア観察カードから正しく転記されているか?) <input checked="" type="checkbox"/>	
				適正化すべき記事内容 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)			記事を削除・変更・追記した理由	
				追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点)	
154	47.20	47.89	(岩級区分)CL	(岩級区分)D	47.20	47.89	(岩級区分)D	
155	47.47	47.89	破砕帯(D-1破砕帯)	破砕帯(D-1破砕帯)	47.47	47.89	破砕帯(D-1破砕帯)	
156	47.47	47.48	Hc-1(主せん断面・47.47m) 上端65°、下端65°で、両者とも直線的でシャープに連続。φ1~2mm石英粒を少量含む灰褐色(7.5YR 5/2)の軟弱な粘土。厚さは3~6mm。	Hc-1(最新活動面・47.47m) 上端65°、下端65°で、両者とも直線的でシャープに連続。φ1~2mm石英粒を少量含む灰褐色(7.5YR 5/2)の軟弱な粘土。厚さは3~6mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。	47.47	47.48	Hc-1(最新活動面・47.47m) 上端65°、下端65°で、両者とも直線的でシャープに連続。φ1~2mm石英粒を少量含む灰褐色(7.5YR 5/2)の軟弱な粘土。厚さは3~6mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。	
157	47.48	47.66	Hb 上端65°、下端不明瞭で、上端は直線的でシャープ。下端は漸移的である。φ2~3mm石英粒とφ5~10mmの大半が粘土化した岩片を含む軟弱な黄褐色粘土。粘土は灰褐色(2.5Y 7/2)。石英粒と岩片の多くはマンガン鉱染で黒褐色化する。厚さ67mm(68°)。	Hb 上端65°、下端不明瞭で、上端は直線的でシャープ。下端は漸移的である。φ2~3mm石英粒とφ5~10mmの大半が粘土化した岩片を含む軟弱な粘土質硬塊で灰褐色(2.5Y 7/2)。石英粒と岩片の多くはマンガン鉱染で黒褐色化する。厚さ67mm(68°)。 含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	47.48	47.66	Hb 上端65°、下端不明瞭で、上端は直線的でシャープ。下端は漸移的である。φ2~3mm石英粒とφ5~10mmの大半が粘土化した岩片を含む軟弱な粘土質硬塊で灰褐色(2.5Y 7/2)。石英粒と岩片の多くはマンガン鉱染で黒褐色化する。厚さ67mm(68°)。 含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	
158	47.66	47.86	Hj 上端不明瞭、下端63°で、下端は直線的でシャープに連続。φ10~40mmの一部粘土化。一部硬さE。ないし、Dの岩片主体で、岩片間の基質は灰褐色~灰白色に粘土化する。石英粒と岩片の一部はマンガン鉱染で黒褐色化する。全体的には粘土混り岩片状で、色調は灰黄~黒褐色である。厚さは90mm(63°)。	Hj 上端不明瞭、下端63°で、下端は直線的でシャープに連続。φ10~40mmの一部粘土化。一部硬さE。ないし、Dの岩片主体で、岩片間の基質は灰褐色~灰白色に粘土化する。石英粒と岩片の一部はマンガン鉱染で黒褐色化する。全体的には粘土混り岩片状で、色調は灰黄~黒褐色である。厚さは90mm(63°)。 やや軟質。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	47.66	47.86	Hj 上端不明瞭、下端63°で、下端は直線的でシャープに連続。φ10~40mmの一部粘土化。一部硬さE。ないし、Dの岩片主体で、岩片間の基質は灰褐色~灰白色に粘土化する。石英粒と岩片の一部はマンガン鉱染で黒褐色化する。全体的には粘土混り岩片状で、色調は灰黄~黒褐色である。厚さは90mm(63°)。 やや軟質。含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	
159	47.86	47.89	Hc-2 上端63°、下端60°で、両者とも直線的でシャープに連続。φ2~10mmの石英粒を多く含む灰白色の軟弱粘土で、厚さ15mm(60°)。	Hc 上端63°、下端60°で、両者とも直線的でシャープに連続。φ2~10mmの石英粒を多く含む灰白色の軟弱な粘土質硬塊で、厚さ15mm(60°)。 含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	47.86	47.89	Hc 上端63°、下端60°で、両者とも直線的でシャープに連続。φ2~10mmの石英粒を多く含む灰白色の軟弱な粘土質硬塊で、厚さ15mm(60°)。 含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	
160	47.86	47.89	(破砕帯区分)Hc-2	(破砕帯区分)Hb	47.86	47.89	(破砕帯区分)Hb	
161	47.66	47.89	(変質帯)3ランク	(変質帯)4ランク	47.66	47.89	(変質帯)4ランク	
162	47.89	48.30	風化で割れ目の一部は消滅。ないし、消滅しかかっているが、50~60°の割れ目と低密着割れ目が残留し、一部で砂状化~白色。ないし、淡黄色(2.5Y 8/3)のやや固結した粘土層を伴う。また、各割れ目、低密着割れ目は軽微なマンガン鉱染を受け、黒褐色化する。	風化で割れ目の一部は消滅。ないし、消滅しかかっているが、50~60°の割れ目と低密着割れ目が残留し、一部で砂状化~白色。ないし、淡黄色(2.5Y 8/3)のやや固結した粘土層を伴う。また、各割れ目、低密着割れ目は軽微なマンガン鉱染を受け、黒褐色化する。	47.89	48.30	47.89~48.30m:風化で割れ目の一部は消滅。ないし、消滅しかかっているが、傾斜50~60°の割れ目と低密着割れ目が残留し、一部で砂状化~白色。ないし、淡黄色のやや硬質な粘土層を伴う。また、弱くマンガン鉱染を受け、黒褐色化する。	

H24-D1-5 48.30~54.00m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	報告書柱状図記事			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事		上端深度	下端深度	記事		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	記事を削除・変更・追記した理由			選定した記事内容	コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
163	48.30	48.61	硬さCと硬くなる。40°前後の割れ目が主体で、一部でこれらに斜交～直交する20～30°も分布し、両者が交差する48.40～48.45mではφ5～10mmの岩片に細片化する。割れ目ぞいの砂状化は殆んどなく、粘土脈も分布しない。	48.30	48.61	硬さCと硬くなる。40°前後の割れ目が主体で、一部でこれらに斜交～直交する20～30°も分布し、両者が交差する48.40～48.45mではφ5～10mmの岩片に細片化する。割れ目ぞいの砂状化は殆んどなく、粘土脈も分布しない。	・表現の適正化(近い)	48.30	48.61	48.30～48.61m:傾斜40°前後の割れ目が主体で、一部でこれらに斜交～直交する20～30°も分布し、両者が交差する48.40～48.45mではφ5～10mmの岩片に細片化する。割れ目ぞいの砂状化は殆んどなく、粘土脈も分布しない。	記事欄以外から読み取れる硬さ情報は記載しない
164	48.61	49.50	全体に割れ目が多くなり、コア形状Vである。40～60°割れ目が主体で、48.61～48.88mでは割れ目ぞいに砂状化しない。φ2～5mm前後に細片化する。また、49.25m以降では40～60°割れ目と斜交～直交する20～30°割れ目と交差し、φ5～20mmの岩片に砂状化を伴って、細片化している。各割れ目は49.37m・40°で白色粘土が付着するのみで、これ以外は粘土化部や粘土脈は分布しない。	48.61	49.38	全体に割れ目が多くなり、コア形状Vである。40～60°割れ目が主体で、48.61～48.88mでは割れ目ぞいに砂状化しない。φ2～5mm前後に細片化する。また、49.25m以降では40～60°割れ目と斜交～直交する20～30°割れ目と交差し、φ5～20mmの岩片に砂状化を伴って、細片化している。各割れ目は49.37m・40°で白色粘土が付着するのみで、これ以外は粘土化部や粘土脈は分布しない。	・コアに合わせてコア形状Vが見られる下端深度を変更した ・表現の適正化(近い)	48.61	49.38	全体に割れ目が多くなり、コア形状Vである。40～60°割れ目が主体で、48.61～48.88mでは割れ目ぞいに砂状化しない。φ2～5mm前後に細片化する。また、49.25m以降では40～60°割れ目と斜交～直交する20～30°割れ目と交差し、φ5～20mmの岩片に砂状化を伴って、細片化している。各割れ目は49.37m・40°で白色粘土が付着するのみで、これ以外は粘土化部や粘土脈は分布しない。	
165	49.25	49.38	(コアの硬さ欄)Oランク	49.25	49.38	(コアの硬さ欄)Oランク	・コアはやや硬質であるためコアの硬さのランクをOランクに変更した	49.25	49.38	(コアの硬さ欄)Oランク	
166	49.38	49.50	(割れ目状態欄)Bランク (コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Oランク (岩線区分欄)CM	49.38	49.50	(割れ目状態欄)Bランク (コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Oランク (岩線区分欄)CM	・コアに合わせて割れ目状態、コアの形状、コアの硬さの各ランクを変更した ・上記の変更に伴い、岩線を変更した	49.38	49.50	(割れ目状態欄)Bランク (コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Oランク (岩線区分欄)CM	
167	49.50	52.75	硬さBと硬硬で、50～60°とこれらに斜交～直交する20～50°割れ目が主体で、同角の低密着割れ目も一部に分布する。	49.38	52.75	硬さBと硬硬で、50～60°とこれらに斜交～直交する20～50°割れ目が主体で、同角の低密着割れ目も一部に分布する。	・コアに合わせて硬さBの上端深度を変更した ・表現の適正化(同角度)	49.38	52.75	49.38～52.75m:傾斜50～60°とこれらに斜交～直交する20～50°の割れ目が主体で、同傾斜の低密着割れ目も一部に分布する。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
168	50.63	50.66	割れ目ぞいでは割れ目ぞいにφ3～10mmに細片化するが、砂状部や粘土化部は伴わない。	50.63	50.66	割れ目ぞいでは割れ目ぞいにφ3～10mmに細片化するが、砂状部や粘土化部は伴わない。	・文章の適正化(割れ目ぞいではを削除) ・表現の適正化(近い、伴う)	50.63	50.66	50.63～50.66m:割れ目ぞいにφ3～10mmに細片化するが、砂状部や粘土化部は伴わない。	
169	50.73	50.75	50～60°割れ目ぞいはやや赤色帯びる。	50.73	50.85	50～60°割れ目ぞいはやや赤色帯びる。	・傾斜の修正(50.75⇒50.85) ・表現の適正化(やや、近い)	50.73	50.85	50.73～50.85m:傾斜50～60°の割れ目ぞいはやや赤色帯びる。	
170	51.38	51.42	50～60°割れ目ぞいにやや軟質化する(硬さC)が、粘土化や粘土脈は挟まない。	51.38	51.42	50～60°割れ目ぞいにやや軟質化する(硬さC)が、粘土化や粘土脈は挟まない。 51.38mの割れ目ぞいは砂状化する。	・表現の適正化(やや、近い、軟質化、挟む) ・砂状部の挟は周囲と異なる状態であるため追記した	51.38	51.42	51.38～51.42m:傾斜50～60°の割れ目ぞいにやや軟質化し、硬さ「C」となるが、粘土化や粘土脈は挟まない。51.38mの割れ目ぞいは砂状化する。	
171	52.17	52.17	50～60°でやや波打つ割れ目ぞいが幅1～3mmの緑灰色部あり(緑泥石化)。φ0.5mm以下の微細な金属鉱物が晶出する	52.17	52.17	50～60°でやや波打つ割れ目ぞいが幅1～3mmの緑灰色部あり(緑泥石化)。φ0.5mm以下の微細な金属鉱物が晶出する	・表現の適正化(やや、近い)	52.17	52.17	52.17m:傾斜50～60°でやや波打つ割れ目ぞいが幅1～3mmで緑泥石化により緑灰色化し、φ0.5mm以下の微細な金属鉱物が晶出する。	
172	52.75	53.58	30～60°割れ目主体で、割れ目には砂状化部や粘土化部～粘土脈を挟まない。一部、微細な割れ目が分布するが密着度は高く、ハンマー打撃では分離しない。	52.75	53.58	30～60°割れ目主体で、割れ目には砂状化部や粘土化部～粘土脈を挟まない。一部、微細な割れ目が分布するが密着度は高く、ハンマー打撃では分離しない。	・表現の適正化(挟む) ・表現の統一(Oランク⇒割れ目)	52.75	53.58	52.75～53.58m:傾斜30～60°の割れ目が主体で、割れ目に砂状化部や粘土化部～粘土脈は挟まない。一部、微細な割れ目が分布するが、密着度は高く、ハンマーの打撃では分離しない。	
173	52.91	52.91	50°前後2～4mm石英脈が母岩に密着して連続。一部、溶融部を伴う。	-	-	-		52.91	52.91	52.91m:傾斜50°で幅2～4mmの石英脈が母岩に密着して連続する。一部、溶融部を伴う。	
174	53.58	54.00	20～60°割れ目と一部で同方向の低密着割れ目も分布するが、一部では、ハンマーの打撃で低密着割れ目ぞいに分離～岩片化する。	53.58	54.00	20～60°割れ目と一部で同方向の低密着割れ目も分布するが、一部では、ハンマーの打撃で低密着割れ目ぞいに分離、岩片化する。	・表現の適正化(近い、⇒)	53.58	54.00	53.58～54.00m:傾斜20～60°の割れ目と一部で同方向の低密着割れ目も分布する。一部では、ハンマーの打撃で低密着割れ目ぞいに分離、岩片化する。	
175	54.00	54.00	54mで換尺	54.00	54.00	54mで換尺	・コア観察の情報ではないため削除した	-	-	-	